

園外保育

倉 橋 生

○五月十六日神戸市に於て開催せられた第二十二回京阪神三市聯合保育會は、例によつて甚だ盛會であつた。各市保育會提出の研究題、會員の十分間談話、新遊戯交換、いづれも極めて有益のものであつたが、殊に私の興味を促したものは、研究題中の園外保育問題であつた。

○此の問題は『各園に於ける園外保育の實際を承りたし』といふ題下に大阪市保育會の提出にかゝるものであつて、提出側の問題説明の後、三市を通じて可なり多數の會員の報告及び意見の發表があつた。私は其の一言一語に深い注意を拂つたのであるが、問題の性質上、地理的關係に支配せらるゝことが多いので、實施狀態の差違、又多少の意見の相違等も、多くはその點から解釋せられ得べきものゝ様であつた。兎に角く、此の問題が三

市保育界一般の注意をひくこと斯くの如く、理論期を過ぎて、既に實行期に入り、其の最善の方法に就て斯くの如く研究せられて居ることは、最も愉快とする處である。

○園外保育は、文字の示す通り、保育の場所及び手段を、幼稚園内に限らず、園の外にまで擴張するといふ意味である。従つて、最も廣義の内容を有するものであつて、斯く斯くすることのみが園外保育であるといふ様に狭く限らるゝものではない。理論の上から言つてもそうであるし、殊に實際上、園外保育の發達の爲に、充分廣く解釋して置く方が利益であると思ふ。そこで念の爲め、その廣い内容を分類して見ると、次の如くなるであらう。先づ其の目的に就て見れば消極的と積極的との二つがある。消極的といふのは、幼稚園の

位置、廣さ、設備等の關係から、日光及び新鮮の空氣の充分といふ點に缺けて居るとか、自由なる遊戲活動の餘地に乏しいとかいふ缺陷を補ふために、園外適宜の場所へ引率して行くといふのである。消極的といふ稱呼は何となく當らない様のもすが、幼兒教育の主要なる目的の一つを、其の幼稚園内だけでは充分ならしめ得ない、故に之を行ふといふ意味で、此の場合の園外保育は、園内保育の仕事に附け加へるといふよりも、補ふといふ性質のものである。但し、消極的と叫ぶ故を以て、此の目的を輕視してはならない。殊に都會幼稚園の大多數に於て、此の必要の無いといはる處が、果していくつあらう。此の目的に於て、園外保育の必要は實に大いなりと言はざるを得ない。

次に積極的^{△△△}といふのは、假りに上述の如き必要を離れて、尙ほ、園内保育に附け加へてする場合である。即ち限られたる園内に於ては到底與

へることの出来ない、實物接觸の機會を與へることである。其の細かい目的、適用の範圍に於ては大に趣を異にするけれども、形式に於ては、學校教育の「實地見學」に似たるものである。一例を舉げれば動物園へ連れてゆく、練兵場へ連れてゆく、停車場へ連れてゆく、殊に、都會幼稚園では郊外田野等に連れて行く自然との接觸である。或は又斯くの如く大仕掛けでなくとも、近所の神社佛閣とか、乃至金魚屋でも小鳥屋でもよからう。但し斯くすることは、必ずしも學校教育の場合の如く幼兒の觀念界を多くするといふ純知的な目的を有するのではない。結果としては自然をういふことになるでもあらうけれども、主とする處は、幼兒の興味を刺激するにある。従つて、其の自發活動の發動を促すにある。狭い園内の、いつも變化のない繪圖類や額や、小數の枯死せる標本や、さまざまのお話や唱歌の繰り返へしでは、折角充溢せる自發活動も、其の發動の機會、形式を限られる

恐れがある。幼児には盛なる自發性がある自發性があるといつて、其の自發性に形を與へる材料を與へないでよからうか。幼児は想像力が活潑である工夫力が大であるといつて、何の材料をも與へないでよからうか。勿論、設備の完備によつて、園内に於ても、此の目的の幾分を行ふことは出来る。しかし、幼稚園の仕事は幼稚園の門内に限り一歩も外に出られないといふものではない。園外保育といへば事々しくも聞えるが、つまり心ある家庭の親が日曜休日を利用して子供を外につれて出ることを、幼稚園がするだけのことである。そしてそれが極めて有効なことで又至當なことである。

○第二に園外保育を其の度數によつて分類すれば常時的、隨時的の二つに分ち、更に常時的といふのを其の度數の多少によつて、恒常的、定期的の二つに分けられる。常時的、隨時的の別は、實行者の計畫の趣旨によつて起る譯で、之れを他の保育事項の如く、幼稚園教育の常時的手段の一つと

思惟して行ふものと、隨時的のものとするとの區別である。常時的の中の恒常的と定期的との別はいはゞ度數の差に過ぎないともいへるが、恒常的の方は、之れを日々の保育として行ひ、定期的の方は、假令ば學校の運動會とか遠足とかの如く、一年の或る時期を定めて行ふのである。而して此の度數による別は幼稚園の位置によつて大に支配せられることで、假令ば大都市の中央にある幼稚園の如きは種々の困難から恒常的園外保育といふことは中々六かしい。先づ定時的にして其の度數を出來るだけ頻繁にする様に計畫するより他はない。しかし、隨時的でなく定時的にするといふことは、園外保育の必要の認め方によつて起ること、隨時的でも度數が多ければよい様のもので、各保育期に於て度數に甚しい偏頗が起つたり、甚しきは、つい一度も行はないといふ様のことも起り勝ちである。即ち少くも計畫的に行はるゝことにし難いのである。

○第三に、實行の方法から見れば、全園で行ふのと、全園を二つ乃至三つに區分して行ふのと、組毎に行ふのと、組を更に小分して行ふのとに分類せられる。之れは幼児數の多少、保姆の數等によつて生ずる違ひで、極く實際上のことに屬するから、別段論ずる程のことでもないが、園外保育といへば全園でしなければならぬ様に、往々考へられて居るのは誤りであつて、その爲に園外保育の實行をどの位の妨げて居るか分らない。しかも、寧ろ全園で行ふのは特別のことであつて、原則ともいふべきは、組毎にするのが最も適宜にして、又効果が多い。尙ほ、一組の幼児數が餘り多ければ、それでも實際に不便があつて、更に小分した方がよいこともあらう。いづれにしても、學校の遠足や修學旅行の様に考へて、全園擧つて出掛けなければならぬといふものではない。時に、その方法を取るも亦面白いこともあるけれども、それは特別な目的によることといふべきである。

○聯合保育會の翌日、私は神戸幼稚園を參觀した。殊に、其の園外保育の狀況を是非見て呉れといふのが望月園長の依頼でもあつたし、私の豫ての希望でもあつたのである。

前夜の大雨は今朝はもう止んでは居た。しかし空も曇つて居れば、時々冷い風につれて小さめさへしぶきかゝつた。折角の園外保育が見られないかと思ひながら神戸幼稚園へゆく。其のうち空も少しは明るくなつて、うす日影もさして來た。しかし夜上りの雨に山の道草はぬれて居るに相違ない。『どうでせう』と望月園長にきくと、『参りませう。なあに山へ行くまでには道は干いて仕舞ひます』といふ答へである。園外保育を常時的恒常的に、しかも全園の半分づつを交替的に毎日何處かへつれてゆくのをきめにしてあるといふ随分かかしい實行は、成程此位の強い態度でなくては出來まいと思つた。

此の日用つたのは口一里山とかいふ可なり遠い

處であつた。神戸の町は坂が多い。其の坂道を山手通へかゝつて、町を抜けると、足つゞきに其の山の麓になる。お庭式の人工の加つたやさしい山道ではなくて、淺くこそあれ、ほんとうの山道らしい赤土道がうね／＼と爪先上りになつて居る。

少しゆくと急な谷川へかゝつた橋があつて、その傍に馬をつないだ大きな百姓家がある。そこから、いよ／＼山道らしくなつて右は崖、左は谷、道の兩側には雜草も茂つて居れば、道の真中に大きな石も出て居る。坂も増して来る。それに天氣は晴れて来て日があたる。私達は中々えらい坂だと語りあつた。同行の學習院幼稚園の〇〇〇さんのバランルなどは日をよける御用をして居ると、一寸杖になつて下さいと足から頼まれたりして居る様であつた。しかも、幼兒達は、元氣な顔つき元氣な足どりで、といふよりも寧ろ普通の町の道を歩くと同じ平氣さで、ぶん／＼上つてゆく。一人の可愛らしい女兒が、着物の裾を軽くはしよつ

て、『おゝ、しんど』と言つたのを聞いたのは、それから大分上で行つてからのことであつた。しかも、私が丁度その傍に居たので、耻しそうに笑つて馳け出して行つた。全く一人も疲れたもの、疲れたらしいものもなかつた。

行き着いた目的地は、いはゞ山のはざまと言つた處で、今上つて來た道を隔て、一方はなだらかな草地、一方は射的場として用ゐられるといふ小さな小屋のある平坦地である。私達は、その平坦地の方へ上つて立つて見ると、前面の草地が右左上と、美しい新芽の生え茂る小松原に圍まれて、心持ちよい斜面を展開し、そこに山躑躅が美しい花を飾つて居る。幼兒達は思ひ々に其の斜面へ散つた。一人位腰を下ろして憩ふものがあるかと思ふと、そんな因循なのは一人もない。早速銘々の活潑な自由行動に移つて、草をとるもの、花を集めるもの、小松原の中へと突進してゆくもの、笑ひ興じて馳け廻るもの、それが一幅の畫圖をな

して、われ／＼の眼に映じて来る。私は始めて斯ういふ光景を見た。しかし、私は之れ迄幾度となく數知れず此の光景を夢みた。時には夢の中で夢とあきらめながら夢みた。今はそれが實現せられて居るのである。私はどの位の間恍惚として居たのであらう。森の奥のどこかで鶯の啼いて居るのに氣がついたのも、右手を見れば神戸港の海の青く光つて見えるのを氣がついたのも、實に暫く時經た後のことであつた。

○神戸幼稚園の園外保育は、私の所謂常時的恒常的の最も度數の多いものであつて、園を二つに分けて年長の方と幼年の方と、場所の遠近はあるけれども、兎に角く隔日毎には、武徳殿裏の廣地とか諏訪山公園とか、或は此の口一里山とか、草柔かに風快い處へ出る。そして、其の目的としては消極的目的殊に健康の増進を主として居るが、積極的目的として活きた自然物に接觸せしむるといふことにも、大いなる注意を拂うて居る。其の場

所々々の植物の名稱等に就て保姆諸君が豫め専門家に就て正しい知識を貯へて置いて、幼児等の問ひに答へ、又自然に對する興味の喚起に意を用ひて居ることは、嘗て本誌に寄稿せられた同園よりの報告にも明かであつた。

○神戸幼稚園の此の園外保育實施は、恐らく他に多く類のない程熱心な恒常的のものである。但し前にも述べた通り、之れは幼稚園存在の位置が大に關係を有すること、東京の真中、大阪の真中で、此の通りのが容易に出来ることではない。少くも電車使用といふ甚しい大難事を伴ふことであるし、從て時間の關係にも多くの不都合がある。私の同行參觀した日には、辨當を其の山でたべて一としきり遊んで、寫真などを幾度も撮つて、ゆつくりして歸つて二時迄に充分の餘裕があつた。こんな都合のよい處は滅多にあるまい。併し、それにしても、毎日實行といふ覺悟は容易のことではない。望月園長の言によれば、此の試みは三年

前の聯合保育會で、講演の中に一寸勸めた私の注意に發するものだといふことであるが、若し果して左様とすれば、私の希望が玆まで大々的に存分に實行せられたことを、うれしさに禁じ難く思はずには居られない。實際いへば私も是れ迄のことは考へて居なかつた。たゞ漠然と、日光と空氣と自由な遊び場と、而して活きた自然物とに對する熱望を有して居たに過ぎない。それが斯く迄充分に且つ組織的に行はれたのは一つに神戸幼稚園の大いなる努力の結果である。之れが近い神戸のことであるから特別にも噂さしない様のものゝ、獨逸とか亞米利加とかで行はれて居るのを見て來ての話ならば、どの位評判せられるのかも知れない。尤も神戸幼稚園自身では、もう平常事になつて仕舞つて、何等特別のことをして居ると思つて居ない。

○私は此の通りのことを、どこの幼稚園にも望むべきものだと思つて居ない。又、此の通りに行

はれなければならぬといふことも、少しもない。元來が廣義の意味をもつ園外保育は、どんな方法で行はれてもよい筈のものである。度數は多い方がよいに違ひないけれども、無理をしてまですることも却つてよくあるまい。場所の理想的といふことも同じである。いゝ方がいゝとはいへ、無理なことは企てられない。たゞ、園外保育の効果を多少でも認められた上は、之れを實行することに就て考究すべきである。そして出來得る範圍で、すべての時と、すべての場所とを、幼兒の幸福と利益とに利用すべきである。

